

小笠原諸島世界自然遺産 登録10周年記念事業一覧

資料6

番号	事業名(タイトル)	全体趣旨	事業項目	事業項目の内容	主催	場所	実施日・期間	対象者
1	遺産登録10周年記念式典	遺産登録10周年を記念した式典を行い、1年間のPRイベント等のキックオフとする。	記念式典	・管理機関の挨拶(ビデオメッセージ、代読 他)	管理機関(環境省、林野庁、文化庁、東京都、小笠原村)	都庁都民ホール(東京都新宿区)、父島会場からオンライン配信	開催済 (6月26日)	一般
			記念講演	・小笠原に関連のある有識者・ゲストより小笠原の魅力を発信				
			トークセッション	・小笠原が持つ魅力を未来へ引き継いでいくために私たちができることを改めて視聴者に考えてもらうきっかけ作りを目的として、講演者・小笠原村関係者を交えたクロストーク				
			記念映像の放映	・小笠原世界自然遺産の紹介映像(10~15分)を放映する ・映像は既存データを用い、編集・音入れにより新たに製作				
			中継	・小笠原参加者は父島会場より参加。 ・映像は都民ホールに拠点を設け、Youtubeにてオンライン配信。				
2	Ogasawara Weeks ~世界自然遺産登録から10年。小笠原の魅力に触れる20日間~	小笠原を訪れたことのある人、これから行きたい人、自然派志向の人など一般の人向けに、小笠原の世界遺産、エコツーリズムなどを広く発信することによって、小笠原諸島世界自然遺産をPRするために実施するもの。		(全体コンセプト) ・新宿御苑インフォメーションセンターにおいて、10月4日から24日までの20日間、以下の企画を実施。	管理機関(環境省、林野庁、文化庁、東京都、小笠原村)	新宿御苑(東京都新宿区)	10月4日 ~24日	一般
			記念パネル展	・遺産登録から10年の歩みをパネルを新たに作成し、展示。				
			フォトコンテスト	・「小笠原の自然風景」「小笠原の生きもの」「小笠原の日常風景」の3つのテーマで一般公募により写真を募集。 ・応募のあった写真の中から、優れた写真40枚を厳選し、インフォメーションセンターのアートギャラリーにて展示。 ・展示した写真については一般投票を実施し、グランプリ及び優秀賞等を選定した。				
	記念映像の放映	・小笠原世界自然遺産の紹介映像(10~15分)を常設展示スペースにて繰り返し放映。						

番号	事業名(タイトル)	全体趣旨	事業項目	事業項目の内容	主催	場所	実施日・期間	対象者
3	小笠原学術研究会	科学委員会を中心とした研究者による学術研究会を開催し、10年間の自然生態系の現状評価・レビュー、10年後に向けた提言をとりまとめる	セッション ブリーフィング 意見交換会 全体講評	セッションごとに座長を設け、テーマ別に講演、意見交換を行う。 各セッションの結果を座長より発表し、全体で情報の共有、振り返りを行う。 「小笠原諸島の自然環境を未来へつないでいくために」をテーマに、他の世界自然遺産地域における研究者を招聘し、各地域の遺産管理の現状等についてご講演いただく。また、前半の振り返りも踏まえてつつ、トークセッションを行う。 取りまとめ	小笠原学術研究会実行委員会(仮)	東京都立大学 ※オンライン併用	2月23日 (水・祝日)	研究者 管理機関 一般
4	遺産登録10周年島内企画展 「進化と変化を続ける島々から聞こえてくる声」	遺産登録10年間の歩みや取組状況に係る展示解説により、村民や観光客に遺産の価値を再認識してもらう。	パネル展示等による企画展の実施(村民との意見交換会の代わりにヒアリングを実施)	・小笠原ビジターセンター、小笠原世界遺産センターの合同企画展 ・小笠原の自然環境、遺産価値を保全する取組に関わる人達を紹介(管理機関と地域団体による取組を報告) ・これまでの10年の取組をまとめたパネルを両センターで展示する	管理機関現地事務局(環境省、林野庁、東京都、小笠原村)	小笠原ビジターセンター 遺産センター 母島(会場未定)	11月～12月(父島) 1～2月(母島)	村民 観光客
5	ディスカバリーフォトコンテスト	遺産登録10周年を記念し、大神山公園の魅力をテーマにフォトコンテストを開催する。	フォトコンテスト	・大神山公園内、または園外から園内を撮影した人物、風景、動植物などの写真を1人3点まで応募可能 ・結果はHP及びTwitterで発表し、入選作品は小笠原ビジターセンター内特別ブースに展示	東京都公園協会	オンライン 小笠原ビジターセンター	7月22日～ 2022年2月13日 結果発表:3月6日	一般
6	都立動物園・水族園との連携企画	各園が飼育・保全に取組む小笠原の動物を動画やポスター等により紹介	小笠原産の飼育動物を活用した展示解説、イベント等	東京Zoovie(公式YouTube)で「4園の小笠原の生物の保全」についての動画を公開 東京メトロ銀座駅で動画、パネル、ポスター等により小笠原の生きものを紹介する「ふるさとPR」イベントを開催 講演会「未来につなごう！世界に誇れる小笠原の生き物たち」 小笠原の世界自然遺産登録10周年を記念し、東京動物園協会が行っている小笠原の希少種保全取組を紹介	東京動物園協会	YouTube 東京メトロ銀座駅構内 オンライン	公開中(10月10日～) 開催済(10月15日～21日) 2022年2月6日	一般
7	都立植物園との連携企画	植物園の来園者に、小笠原の植物の希少性や生物多様性の価値等を伝える。	記念パネル展	「世界自然遺産小笠原諸島展」 詳細は年明け以降に決定	夢の島熱帯植物館	夢の島熱帯植物館企画展示室	2022年3月1日～4月3日	一般
8	遺産登録10周年記念講演(チャールズ・ダーウィン財団)	世界自然遺産第1号であるガラパゴスの取組を学ぶとともに、双方の連携を強化する。	ガラパゴスの自然環境保全に係る取組の講演、意見交換等	・現地(ガラパゴス)の保全関係者等による講演 ・意見交換 ・パネル展示(小笠原ビジターセンター)	東京都	開催方法 WEB講演会(父島会場) 状況次第で公開	コロナにより 現地からの渡航断念	村民 観光客(一般)
9	無人島視察会	無人島の状況を、村民に現地で直接見てもらい、伝える。		・地元講師、有識者による生物解説 ・管理機関による取組説明 ・作業体験?	小笠原村	聳島・弟島	2022年予定	村民
10	世界遺産村民意向調査	村民が遺産に関して肌で感じていることを広く把握する。		自然環境の利用頻度、遺産と生活 遺産の取組の認知度、取組の官民連携 オガニマルズ(小笠原の動植物)人気投票	小笠原村		6～7月	全世帯と 小学5年生～高校3年生

番号	事業名(タイトル)	全体趣旨	事業項目	事業項目の内容	主催	場所	実施日・期間	対象者
11	ノベルティ作成(写真立てと生き物写真)	小笠原の自然を身近に感じてもらうとともに、外来樹木を活用することで取組の普及啓発も図る。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・オガニマルズ(小笠原の動植物)人気投票トップ10の写真</li> <li>・アカギとリュウキュウマツで作製した写真立て</li> <li>・生き物解説を島内外の縁の深い人へ依頼</li> </ul>	小笠原村	全戸配布	12月頃	村民
12	ははじま丸クルーズ	無人島の状況を、はは丸から直接見てもらい広く伝える。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・有識者による自然環境、生物の解説</li> <li>・管理機関による取組説明</li> <li>・船内放送、パネル展示</li> </ul>	小笠原村	父島列島 母島列島	2022年予定	一般
13	島民座談会	一般島民向けに世界遺産10年の取組、次の10年に向けた目標を共有する		<ul style="list-style-type: none"> <li>・次の10年の目標を、島民目線で考える</li> <li>・管理機関は次の10年に向けた島民意識を体感する</li> </ul>	管理機関現地事務局(環境省、林野庁、東京都、小笠原村)	遺産センター	未定	一般島民、島内関係者
14	特別番組放映	村民が普段見ることのない無人島等の状況を映像を通じて伝え、遺産管理への理解を促す。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界遺産に係る人物、団体へのインタビュー</li> <li>・既存映像、新規映像を組み合わせた自然環境や取組の紹介</li> <li>・30分×7本(ヒワの保全、保護増殖室密着、西之島・南北硫黄島、エコツアー、作業員密着、ネコP、海ゴミ)</li> </ul>	管理機関現地事務局(環境省、林野庁、東京都、小笠原村)	小笠原村 ケーブルテレビ YouTube	1月頃	一般
15	小笠原DAYとコラボ	小笠原に興味がある人を中心に島外向けに遺産を観光の観点からPRする。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・小笠原遺産ブースの出展</li> <li>・他の自然遺産地域の紹介</li> </ul>	小笠原村観光局 小笠原村	未定	未定	一般
16	おが丸クルーズとコラボ	無人島の状況を、おが丸から直接見てもらい広く伝える。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・有識者による自然環境、生物の解説</li> <li>・管理機関による取組説明</li> <li>・船内放送、パネル展示</li> </ul>	小笠原海運 船内企画:村 予定	西之島	2022年予定	一般
17	オンライン環境学習講座	都民が環境問題への理解を深め、環境に配慮した自発的な行動を取れるように普及啓発。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・講師は、東京都レンジャー(父島1名、母島1名)</li> <li>・小笠原の自然、生活、活動の紹介</li> <li>・リアルタイムで父島母島を紹介</li> </ul>	東京都 公益財団法人 東京都環境公 社	オンライン	実施済 (6月27日)	一般都民 500名
18	博物館特別企画展	硫黄列島の調査の様子などを紹介し、あまり知られていない硫黄列島の自然の魅力を伝える。		<ul style="list-style-type: none"> <li>神奈川県立生命の星・地球博物館にて特別企画展「絶海の自然-硫黄列島をゆく-」</li> <li>・硫黄3島の位置・地形の模型を展示</li> <li>・南硫黄島の調査の様子や成果、固有種や絶滅危惧種の動植物の標本や写真を紹介</li> <li>・硫黄3島それぞれの比較や他の海洋島である大東諸島との比較</li> <li>・映像コーナーにて独自映像を上映</li> </ul>	主催:神奈川 県立生命の 星・地球博物 館.IBO 後援:東京都 小笠原支庁ほ か	神奈川県立 生命の星・地 球博物館	開催済(7月 17日~10月 31日)	一般



## 小笠原諸島世界自然遺産地域登録 10 周年記念式典 開催結果

## 1. 開催概要

## 【目的】

小笠原諸島は維管束植物や陸産貝類の高い固有種率や適応放散に代表される現在進行中の種分化が見られること等が高く評価され、2011 年 6 月に我が国 4 番目の世界自然遺産に登録された。そして、2021 年は世界自然遺産登録から 10 年となる節目の年であり、これまでの取組を振り返り、次の 10 年へとつなげていくとともに、この機会に島外の多くの人々に小笠原諸島の魅力を広く発信するため、この度、遺産登録 10 周年事業として「小笠原諸島世界自然遺産地域登録 10 周年記念式典」をオンラインにて開催し、国内における世界自然遺産に対する保全の意識を高め、後世に引き継いでいくことを目的とした。

【開催日時】令和 3 年 6 月 26 日（土）15 時 00 分～17 時 00 分

【会場】都民ホール（都内）及び小笠原世界遺産センター（父島）より動画配信。

一般視聴者は、Youtube より動画視聴

【主催】小笠原諸島世界自然遺産地域管理機関

## 【プログラム】

※司会進行：芦川 愛子（フリーアナウンサー）

15:00 主催挨拶

環境副大臣 笹川 博義

東京都知事 小池 百合子

関東森林管理局長 上大田 光成

15:10 来賓祝辞

15:15 表彰・受賞者紹介

「令和 3 年度野生生物保護功労者」 小笠原海運

「令和 3 年度 みどりの日 自然環境功労者」 小笠原海洋島研究会

15:20 記念講演①「小笠原のマイマイに進化を見る」 千葉 聡（東北大学 教授）

15:20 記念講演②「小笠原諸島 誕生の秘密」 海野 進（金沢大学 教授）

16:00 ゲスト講演「さかなクンが語る！小笠原の海のいきものの魅力とは？」

さかなクン（地球いきもの応援団）

16:20 トークセッション「未来へつなげていくためにできること」

全体コーディネーター：可知 直毅（東京都立大学 特任教授）

登壇者：千葉 聡（東北大学 教授）／海野 進（金沢大学 教授）／さかなクン（地球いきもの応援団）／渋谷 正昭（小笠原村 副村長）／芦川 愛子（フリーアナウンサー）

16:55 おわりに（小笠原村長 森下 一男）

17:00 エンディング（遺産紹介映像の放映）

## 2. 結果概要

### 【申込状況】

- ◆ 申込件数…577 件
- ◆ 視聴者数…768 人 ※申告による人数
- ◆ 申込者属性 (n=564)
  - ・ **年齢** 50代が最も多く約3割を占めた。30代以下も3割を超え、比較的幅広い年齢層から申し込みがあった。
  - ・ **居住地** 小笠原村居住者は約2割で、都内(23区、多摩地域)が最も多く、約4割を占めた。その他地域では、海外からの申し込みもあった。
  - ・ **渡航経験** 居住経験者が約2.5割、渡航経験者が約4割、渡航経験なしが約3.5割と、様々な属性から申し込みがあった。

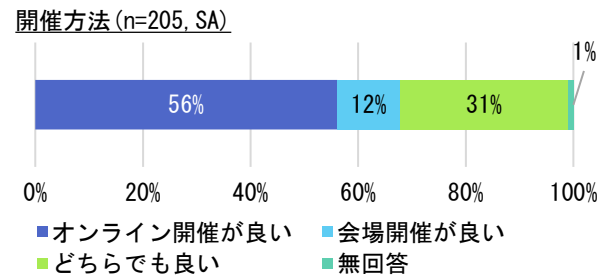
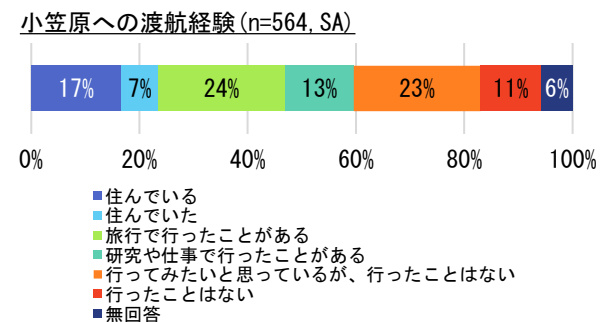
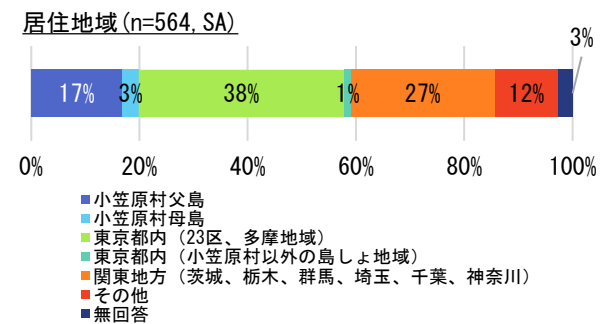
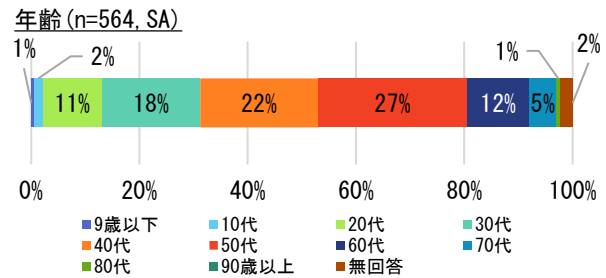
### 【視聴状況】

- ◆ 視聴回数：986
- ◆ ユニーク視聴者数：528 ※推定ユーザー数
- ◆ 最大同時接続数：336
- ◆ 視聴者の感想 (n=205)
  - ・ 内容、時間ともに高い満足度が得られた。
  - ・ 今後のイベント開催方法については、「オンライン開催が良い」が半数を超え、オンライン開催に利点を感じている視聴者が多いとみられる。

### 【配信の様子】



配信会場（都民ホール）の様子



トークセッションの様子

## 小笠原諸島世界自然遺産地域登録 10 周年記念フォトコンテスト 開催結果

## 3. 開催概要

## 【目的】

小笠原諸島は維管束植物や陸産貝類の高い固有種率や適応放散に代表される現在進行中の種分化が見られること等が高く評価され、2011 年 6 月に我が国 4 番目の世界自然遺産に登録された。そして、2021 年は世界自然遺産登録から 10 年となる節目の年であり、多くの魅力を有する小笠原諸島を次の 10 年、さらにその先へつなげていくため、この度、遺産登録 10 周年事業として「小笠原諸島世界自然遺産地域登録 10 周年記念フォトコンテスト」を開催し、世界自然遺産の価値認識を高め、後世に引き継いでいくことを目的とした。

【開催日時】令和 3 年 8 月 18 日（水）～9 月 15 日（水）

【募集テーマ】①小笠原の自然風景／②小笠原の生きもの／③小笠原の日常風景

【募集方法】Web 上の応募フォームによる

【選考基準】後世まで伝えたい小笠原の魅力を描写していること、写真を見た人が行ってみたいくなるような小笠原の魅力を描写していること

【選考方法】①事務局による入選候補の選定、②一般投票及び事務局による最終審査

【表彰内容】グランプリ 1 作品、優秀賞 3 作品、入選 36 作品

※優秀賞以上の作品には、賞状と副賞を贈呈予定

【主催】小笠原諸島世界自然遺産地域登録 10 周年記念フォトコンテスト 事務局  
(環境省関東地方環境事務所、林野庁関東森林管理局、東京都、小笠原村)

#### 4. 結果概要

##### 【応募状況】

◆応募者数…138名

◆応募作品数…874点 ※1人あたりの応募点数は無制限

◆応募属性等

- ・応募者アンケートの結果概要は下記のとおりである。
- ・6月末に開催した10周年記念式典（主催：管理機関）の参加申込者の属性と比較すると、若年層、島内居住者、居住経験者の割合が高くなっている。

**年齢** 30代が最も多く約3割を占めた。半数以上が30代以下と、比較的若い層からの申し込みが多かった。

※式典申込者は、約6割が40代以上であった。

**居住地** 島内が約3割、島内を除く関東地方が約6割、その他地域が約1割であった。北は福島、南は鹿児島まで、全国各地より申し込みがあった。

※式典申込者は、約8割が島外居住者であった。

**居住・来訪経験** 居住経験者が約3.5割、来訪経験者のある人が約6割で、比較的幅広い年齢層から申し込みがあった。

※式典申込者のうち、居住経験者は約2.5割であった。

**応募動機** 9割以上が「小笠原が好きだから」と回答した。次いで「写真・カメラが好きだから」との回答も半数を超えた。その他の具体例として「小笠原の魅力を伝えたいと思ったから」、「また行きたい場所だから」との回答が複数見られた。

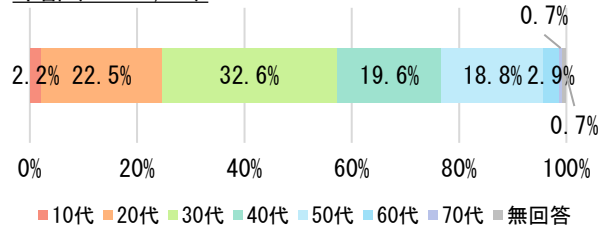
##### 【一般投票状況】

◆投票数…879票

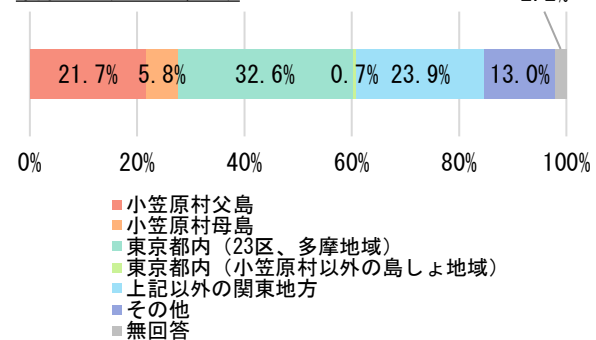
（新宿 623票、父島 130票、母島 126票）

- ・新宿御苑（10/5～10/24）、小笠原世界遺産センター（10/25～11/5）、沖港船客待合所（10/5～10/19）にて、一般投票を行った。
- ・一般投票の結果は、最終審査の参考とした。

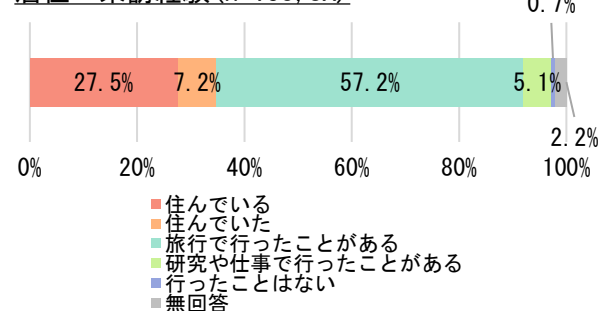
年齢 (n=138, SA)



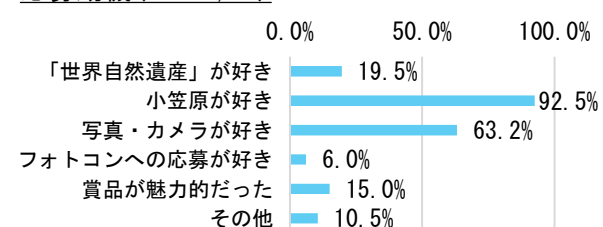
居住地 (n=138, SA)



居住・来訪経験 (n=138, SA)



応募動機 (n=133, MA)





### 【審査結果】

- ・一次選定として、事務局にて入選作品 40 点を選定した。
- ・その後、一般投票及び事務局による最終審査を経て、グランプリ 1 作品、優秀賞 3 作品、特別賞 1 作品を選定した。
- ・なお、グランプリは 3 テーマ全体で最も評価の高かったもの、優秀賞は各テーマから 1 作品ずつ選定した。
- ・特別賞は当初設定していなかったが、優秀賞にも匹敵する高い評価を得たことから、優秀賞の次点として各テーマから 1 作品ずつ選定した。

### ◆グランプリ



『いざ！母島へ』（高橋小太郎 撮影）

撮影地：ははじま丸船上

◆優秀賞

テーマ1：小笠原の自然風景



『Mirror Reflection』(Matsuno Simona 撮影)

撮影地：母島・蓬莱根

テーマ2：小笠原の生きもの



『synchronicity』(小林修一 撮影)

撮影地：父島沖

テーマ3：小笠原の日常風景



『いってらっしゃい!』(宮城雅司 撮影)

撮影地：母島・沖港

◆特別賞

テーマ1：小笠原の自然風景



『ハートロックと子クジラ』(小川竜太 撮影)

撮影地：父島沖

テーマ2：小笠原の生きもの



『羽ばたき』(木戸寛之 撮影)

撮影地：母島・南崎

テーマ3：小笠原の日常風景



『ある日の屋下がり』(望月啓市 撮影)

撮影地：父島・宮之浜

**小笠原諸島世界自然遺産地域登録 10 周年記念事業**  
**「Ogasawara Weeks ～世界自然遺産登録から 10 年。小笠原の魅力に触れる 20 日間～」**  
**開催結果**

## 1. 開催概要

### 【目的】

小笠原諸島は維管束植物や陸産貝類の高い固有種率や適応放散に代表される現在進行中の種分化が見られること等が高く評価され、2011 年 6 月に我が国 4 番目の世界自然遺産に登録された。そして、2021 年は世界自然遺産登録から 10 年となる節目の年であり、この機会に島外の多くの人々に小笠原諸島魅力を広く発信するため、この度、遺産登録 10 周年事業として新宿御苑において「Ogasawara Weeks ～世界自然遺産登録から 10 年。小笠原の魅力に触れる 20 日間～」を開催し、世界自然遺産の価値認識を高め、後世に引き継いでいくことを目的とした。

**【開催日時】** 令和 3 年 10 月 5 日（火）～10 月 24 日（日）9 時 00 分～16 時 30 分

**【会場】** 新宿御苑インフォメーションセンター（東京都新宿区）

**【主催】** 小笠原諸島世界自然遺産地域登録 10 周年記念 Ogasawara Weeks 事務局  
（環境省関東地方環境事務所、林野庁関東森林管理局、東京都、小笠原村）

### 【実施内容】

- ・小笠原諸島世界自然遺産地域登録 10 周年記念フォトコンテスト作品展示  
…「後世まで伝えたい小笠原の魅力」をテーマに公募したフォトコンテスト（詳細は別紙参照）の入賞作品の展示及び人気投票を実施した（投票数 623 件）。
- ・記念パネル展  
…世界自然遺産登録から 10 年間の取組等を紹介したパネルを展示した。
- ・記念映像放映  
…世界自然遺産登録 10 周年を記念して制作した、小笠原諸島の風景や生きもの等の紹介映像を上映した。

### 【来場者数】

7,719 名 ※開催期間中（20 日間）の新宿御苑インフォメーションセンターの来館者数

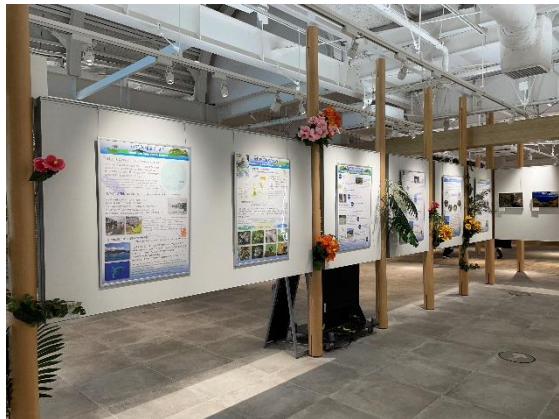


## 2. 開催風景

### ①小笠原諸島世界自然遺産地域登録 10 周年記念フォトコンテスト作品展示



### ②記念パネル展



### ③記念映像放映



記念映像放映ブース横で  
遺産関連パンフレットを配布⇒

## 小笠原諸島世界自然遺産地域登録 10 周年記念大会「小笠原学術研究会」実施概要（案）

名 称 : 小笠原諸島世界自然遺産地域登録 10 周年記念大会 小笠原学術研究会

テーマ : 「小笠原諸島世界自然遺産」を未来へつないでいくために（仮）  
平成 23 年 6 月に小笠原諸島が世界自然遺産に登録され、今年で 10 年目となるこの機会に、これまでの小笠原諸島世界自然遺産地域の現状を科学的見地から改めて評価し、他の世界自然遺産地域における有識者を招聘することによって、外部の視点も取り入れて次の 10 年に向けて取り組むべきことを整理することを目的としている。

主 催 : 小笠原学術研究会実行委員会（委員長 可知直毅先生）  
運営事務局：環境省関東地方環境事務所、林野庁関東森林管理局、東京都、小笠原村

日 程 : 令和 4 年 2 月 23 日（水）【確定】

会 場 : 東京都立大学（〒192-0397 東京都八王子市南大沢 1 - 1）

開催方法： 対面／Web ハイブリッド（※一般傍聴も想定。当日配信も検討中）

プログラム：

10：00 開会挨拶（10 分）（小笠原学術研究会実行委員会 委員長 可知直毅先生）  
可知委員長による開会挨拶及び小笠原諸島 10 年間の振り返りを行う。

10：20～12：00 セッション（100 分）

セッションごとに座長を設け、テーマ別に講演、意見交換を行う。

■セッション 1 「世界自然遺産地域における管理制度について」

（座長：吉田 正人先生（筑波大学大学院））

■セッション 2 「地域との合意形成の築き方について」

（座長：織 朱實先生（上智大学大学院））

■セッション 3 「小笠原諸島の植物について」

（座長：清水 善和先生（駒澤大学））

■セッション 4 「小笠原諸島の動物について」

（座長：川上 和人先生（森林総合研究所））

12：00～13：00 昼休み（60 分）

13：00～14：00 ブリーフィング（60 分）

可知委員長の進行により、各セッションの結果を座長より発表（各 15 分程度）。全体で情報の共有、振り返りを行う。

14：00～14：15 休憩

**14：15～15：45 【5】意見交換会（90分）**

テーマ「小笠原諸島世界自然遺産」を未来へつないでいくために（仮）」

他の世界自然遺産地域における研究者（以下の通り）を招聘し、各地域の遺産管理の現状等についてご講演いただくとともに、前半の振り返りも踏まえて可知委員長（座長）によるトークセッションを行う。

- 白神山地世界自然遺産地域科学委員長／森林総合研究所所長 中静 徹先生
- 屋久島世界自然遺産地域科学委員長／一般社団法人九州オープンユニバーシティ研究部長  
／福岡市科学館館長 矢原 徹一先生
- 奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島世界自然遺産地域科学委員会／北九州市立自然史・歴史博物館館長 伊澤 雅子先生
- 知床世界自然遺産地域科学委員会委員／北海道大学大学院農学研究院 中村 太士先生

**15：45～15：55 【6】全体講評**

可知委員長より全体講評（まとめ）

16：00 閉会（司会進行により）

## 小笠原諸島世界自然遺産登録10周年 島内企画

## ■パンフレットの作成【小笠原村】

- ・目的：小笠原の自然遺産の価値と遺産管理のための取組に関する普及啓発に用いるため。
- ・方法：島内関係者はじめとした村民や有識者、過去の行政関係者23組31名へのヒアリングと当時の資料提供依頼を実施（R2年度の遺産に関する村民意見交換会の開催が難しい状況にあるため、個別のヒアリングに替えることで、村民意見等の把握に努めることとする。）
- ・時期：令和2年度中にヒアリング、令和3年4月に編集、6月頃に完成、全戸配布。
- ・構成：小笠原の自然遺産に関わってきた人々へのインタビュー形式で1年ごとにまとめて、10年間を振り返る。
- ・表題：小笠原諸島世界自然遺産 登録から10年の軌跡  
「進化と変化を続ける島々の自然と暮らしを紡ぐヒトビト」

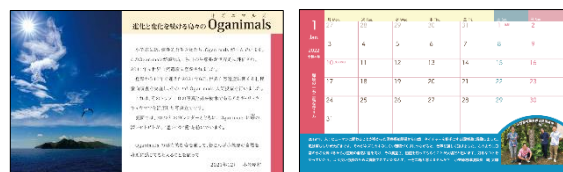


## ■世界自然遺産に関する村民意向の把握【小笠原村】

- ・目的：村民が遺産に関して肌で感じていることを広く把握し、遺産に関する取組を今後も進めていく際の参考とする。平成27年時の同調査との意向の変化を検証する。
- ・方法：全戸配布（世帯向け：39問）と学校配布（小5・6年向け：2問、中高生向け：27問）によるアンケート調査
- ・時期：令和3年6～7月
- ・内容：自然環境の利用頻度、遺産への希望と期待、遺産と生活、取組の認知度、村民と行政の連携、小笠原の生き物：Oganimals人気投票（トップ10はノベルティ写真に採用）
- ・結果：世帯の34.5%（494/1,433世帯）、小学5～6年生59名、中高生120名から回答  
詳細はH.P.に掲載 [https://www.vill.ogasawara.tokyo.jp/kankyo/kankyo\\_keihatsu/](https://www.vill.ogasawara.tokyo.jp/kankyo/kankyo_keihatsu/)

## ■ノベルティの作成（写真&amp;写真立て）【小笠原村】

- ・目的：小笠原の遺産価値の礎となっている生き物を魅力的な写真とともに紹介することで、遺産を身近に感じてもらうため。併せて小笠原の外来樹木を活用した写真立てをセットにすることで取組の普及啓発も図る。
- ・方法：全戸配布
- ・時期：令和3年12月頃
- ・内容：小笠原の生き物トップ10の写真カードとアカギ・リュウキュウマツで作成した写真立て
- ・分量：紙部分：180×110mmの両面フルカラー12枚  
木部分：180×38×13mm





【構成一覧】

◎：フォトコン入選作品

表面	裏面	表面	裏面
ノベルティ作成の趣旨風景写真◎	1月カレンダー、環境課長挨拶	ヒメツバキの写真◎	7月カレンダー、和田美保氏の生き物紹介文
ザトウクジラの写真◎	2月カレンダー、辻井浩希氏（OWA）の生き物紹介文	オガサワラカワラヒワの写真（川口大朗氏）	8月カレンダー、川口大朗氏（アイランズケア）の生き物紹介文
アカガシラカラスバトの写真◎	3月カレンダー、おが高生のアカポッコあいうえお作文	イルカの写真◎	9月カレンダー、森恭一氏（帝京科学大学）の生き物紹介文
オガサワラオオコウモリの写真（井上正隆氏）	4月カレンダー、鈴木直子氏（IBO）の生き物紹介文	アオウミガメの写真◎	10月カレンダー、近藤理美氏（海洋センター）の生き物紹介文
ハイジマメグロの写真◎	5月カレンダー、川上和人氏（森林総研）の生き物紹介文	オガサワラオカモノアラガイの写真◎	11月カレンダー、庄子恭平氏（おかん研）の生き物紹介文
オガサワラノスリの写真◎	6月カレンダー、千葉タ佳氏の生き物紹介文	写真立てができるまで写真立て取扱い時の注意	12月カレンダー、橋尾昌義氏（グリーン）の写真立ての紹介文

■島内パネル展【管理機関 現地事務局】

- ・目的：小笠原の自然環境、遺産価値についての展示が充実している小笠原世界遺産センター、小笠原ビジターセンターにて、それらの取組と関わる人達を紹介することで、遺産管理のための取組への理解を促す。開館していればいつでも来館可能なため、遺産に関する普及啓発の裾野を広げることが期待できる。母島での出張展示も予定。

- ・時期：令和3年11～12月（母島は翌年1月以降）

・企画展名と趣旨

「進化と変化を続ける島々から聞こえてくる声」

ビジターセンターと遺産センターでの合同企画となることから、「声のヌシ」として、「紡ぐヒト」と生き物（在来種、外来種）が登場する。

常設展示を活用し、「知っている人が登場するなら見に行こうかな」となることを狙い、島民も行きたくなる、両施設に来館する仕掛けを工夫。

- ・展示内容 ：ビジターセンター ：遺産センター
  - ・列島から聞こえてくる声：取組と人の紹介  聳島列島・父島列島  母島列島
  - ・年表  小笠原誕生～2016年  常設展示の年表の右側に2017～2021年を追加
  - ・個性派Oganimals（在来種）ベスト10（両施設5種ずつ展示）
  - ・黒船軍団（外来種）10選（両施設5種ずつ展示）
  - ・オガグワの集い展 （オガサワラグワの紹介、R1講演会データを活用、実物展示）





- ・ 紡ぐヒトビトの声：意向調査結果を常設展示にA3サイズ×13枚を両施設にちりばめる
- ・ すごろく (V 都R H 環境省作成) →ゴールしたら景品 (しぶや木工製作のアカギトンボ)
- ・ フォトコーナー (V フォトプロップス H 顔はめパネル)

【展示風景】



## ■番組制作【管理機関 現地事務局】

- ・ **目的**：小笠原の父島、母島、無人島の自然環境とそこで行われている保全対策、それに関わる人達を取材し、村民が普段見ることのできない無人島等の状況を、映像を通して伝えることで、遺産管理のための取組への理解を促す。映像配信であることから、外出せずに見ることが可能なため、様々な人が視聴することにより、遺産に関する普及啓発の裾野を広げることが期待できる。10周年が終了した後も、遺産価値や保全の取組を島内外に紹介するためのツールとして使用する。
- ・ **時期**：令和3年度中に撮影、編集、配信
- ・ **広報**：A4片面で番組名と趣旨、番組表が入ったチラシを放送直前に全戸配布予定。
- ・ **配信**：小笠原村ケーブルテレビ及びインターネット
- ・ **分量**：30分程度×7番組。ケーブルテレビでは7日間、同時刻に放送
- ・ **全体番組名**：Ogasawara World Natural Heritage Site 10 Anniversary Week（仮称）  
副題 ～自然と暮らしを紡ぐヒトビト～
- ・ **趣旨**：世界自然遺産に関連する人物もしくは団体にスポットを当て、そこから自然環境、取組の紹介まで話題を広げる。

## 【番組構成（配信順未定）】

番組名（仮）	主な内容
オガヒワを 知っていますか？	・オガサワラカワラヒワの保全の取組紹介 ・ヒワ研究者に密着 ・向島の自然を紹介
ガラス張りの 部屋のナゾ	・マイマイとハンミョウプロジェクトの紹介 ・世界遺産センターの保護増殖室の1日に密着 ・兄島、巽島の自然を紹介
秘境の島	・南硫黄島、北硫黄島、西之島の調査の紹介 ・調査に行ったスタッフ・専門家へのインタビュー
エコツアーの その先へ	・小笠原を観光面から支える人たち（父母ガイドと村長）の対談 ※11/11の都のガイド能力向上講習と連携
毎朝4時起床 現場は無人島	・媒島（過酷さ）、嫁島（ネズミ対策）、弟島（人材育成）の自然や植生回復成果の紹介 ・無人島の現場作業員に密着
おがニャン プロジェクト	・小笠原ネコプロジェクトの紹介（山域のネコ捕獲と集落の飼いネコ管理の両輪で進行） ・ネコ隊～ねこまちに密着 ・内地に行き行って飼いネコになるまで ・ペット条例の紹介
UMI GOMI	・海ゴミに関わっている団体、村の仕事の紹介 ・海ゴミの現状と海洋生物への影響 ・日々できること（ゴミ拾い）
オガミニッツ （ショート映像）	・1～2分/本×14本程度（番組の合間にCMのように入る） ・コンセプトは誰でも行ける場所の自然や生き物紹介 【トピック】 メグロ、母遊歩道、陸産貝類、カニ類、セミ、南島、オガもり、ヨシノボリ、GSSの父母活動、遺産Cの希少種、結の道、聳島アホウドリ



資料 6-6



小笠原諸島世界自然遺産登録 10 周年を記念して、大神山公園の魅力テーマにフォトコンテストを開催します。みなさまの素敵な写真をお待ちしております。

**募集期間** 令和3年7月22日(木)～令和4年2月13日(日)まで

**結果発表** 令和4年3月6日(日)公園HP、Twitterにて発表。入選作品は印刷して小笠原村ビジターセンター内特別ブースに展示。春に園内で開催予定のピオ・アース映画祭のスクリーンに映し出されます。

**作品要件**

- ・大神山公園、または園外から園内を撮影したもの。人物、風景、動植物などの写真。
- ・過去に撮影した写真でも未発表の作品なら1人3点まで応募可能です。
- ・トリミングや色調補正などの多少の加工は可。テキスト入りや着色、組み写真は不可。
- ・入賞7作品には賞品として小笠原世界自然遺産登録記念手ぬぐいとTOKYOMXテレビ公式マスコットの「ゆめらいおん」ぬいぐるみ。
- ・最優秀賞には上記2点と、伐採された外来種のアカギを活用した折り畳みテーブルを差し上げます。
- ・先着300名様に大神山公園サービスセンターにてフォトフレームの参加賞をお配りします。

**応募方法** 作品(JPEGファイルで1画像データ10MBまで)、作品タイトルとお名前を添えて右記のQRコードか、こちらのメールアドレス宛にお送りください。oogamiyama@tokyo-park.or.jp



応募用QRコード

主催：公益財団法人 東京都公園協会

主管：小笠原ビジターセンター 大神山公園サービスセンター ポニン・インタープリター協会

協力：東京メトロポリタンテレビジョン 小笠原グリーン(株)





# 応募作品の著作権・ 使用权・個人情報など

- 応募作品の著作権は撮影者に帰属します。
- 本フォトコンテスト主催・公益財団法人 東京都公園協会・後援・協力会社は広報宣伝物などへの掲載を目的とし、応募作品を無償で使用する権利を有します。
- 作品を使用する際にデータサイズの圧縮やトリミングなどの加工をさせていただく場合がございます。
- 作品を使用する際に連絡をさせていただく場合がございます。
- 入賞通知時に確認するお名前・ご住所・お電話番号などの個人情報は、賞品発送など本フォトコンテストを運営するために必要な範囲で使用させていただきます。また入賞者名、作品のタイトルなどは、主催・後援・協力各社で作品とともに使用させていただく場合があります。
- 他人の著作権、肖像権を侵害するような行為が行われた場合、それに関するトラブルの責任は一切負いかねます。

## その他注意事項

- 入賞決定後に違反が判明した場合は、入賞を取り消しさせていただく場合がございます。
- 合成など著しい加工を施した写真はご遠慮ください。
- 本キャンペーンの応募にかかるインターネット接続料および通信費は応募者のご負担となります。
- 内容が以下に相当すると主催者が判断した場合には、主催者は何ら通知などを行わずに、審査の対象外とすることができるものとします。
  - (1) 応募規約などに反するもの。
  - (2) 公序良俗に反し、または反する恐れのあるもの。
  - (3) 第三者の著作権、肖像権その他の権利を侵害し、または侵害する恐れのあるもの。
  - (4) 第三者を誹謗中傷し、またそのプライバシーを侵害するもの。また、その恐れのあるもの。
  - (5) 法令などに違反し、または犯罪行為に結びつくもの。また、その恐れのあるもの。
  - (6) 当コンテストの趣旨などに合わない主催者が判断したもの。
  - (7) 当コンテストの適正な運営を妨げるもの。また、その恐れのあるもの。
  - (8) 作品データが判読不可能なもの。
- 入賞通知について、賞品発送先のお名前・ご住所・お電話番号を確認させていただきます。

(公財)東京動物園協会

東京メトロ銀座駅ふるさと PR イベント 実施報告書

1.開催日時

① 期間 2021年10月15日(金)~10月21日(木)

② 時間 午前11時から

※10月15日(金)と16日(土)は19時まで(販売はこの2日間のみ)

※10月17日(日)~20日(水)は18時まで

※10月21日(木)は16時まで

2.場所

東京メトロ銀座駅 B2 出入口横(アクセス:東京メトロ公式サイト「銀座駅」ページ)

3.テーマ

都立4園の動物と小笠原の生物保全の取組の紹介

小笠原遺産登録10周年企画の一つとして実施(小笠原の生物保全等の紹介)

4.企画内容

(1) 動画上映 75型4Kテレビで上映 以下の動画をループ再生

・都立動物園・水族園の動物4園の動物紹介

・各園で保全に取り組む小笠原産希少種の解説

(オガサワラカワラヒワ、アカガシラカラスバト、ユウゼン、カタマイマイ)

・小笠原諸島PR動画(環境省、小笠原村観光局制作)

・東京 Zoovie のテーマ、井の頭自然文化園「リス音頭」や「モルモットのうた」

(2) ポスターの展示

・4園で取り組む小笠原の生物保全:

アカガシラカラスバト、マイマイ類、ユウゼン、オガサワラカワラヒワの取組

(小笠原の風景、生物の画像を小笠原支庁より借受、これを活用してポスターを制作)

・小笠原のPRポスター2枚(小笠原村提供)

・小笠原世界遺産登録10周年のぼり(環境省から借受)

(3) パンフレットの配布

・各園が取り組む保全活動や教育普及活動に関するリーフレット

・小笠原諸島世界自然遺産登録10周年に関するパンフレット(小笠原村作成)

(4) 小笠原諸島世界自然遺産登録10周年ノベルティグッズの配布

・環境省制作のノベルティグッズを配布(50組)

(5) 東京動物園協会のオリジナルグッズ販売

・動物の形態や生態を重視してデザインした東京動物園協会のオリジナル商品を販売

( 第1日と第2日 [ 10月15日と16日 ] のみ )

5. 告知

東京ズーネット HP、教育普及センター公式ツイッターにて告知

6. 協力

環境省、東京都小笠原支庁、東京都環境局、小笠原村、小笠原村観光局

7. 実施状況

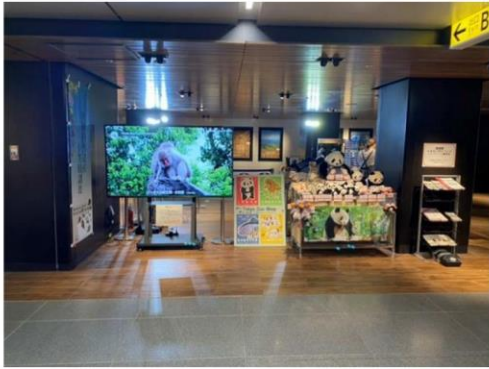
物販：初日 276 名、2 日目 274 名 計 550 名

期間中の来場者（物販以外）：327 名以上

※対応者で適宜カウントしたもの。来場者対応によりカウントできていない場合があったため

「327 名以上」とした

8. 会場の様子（写真）



① 物販ありのレイアウト

②初日(物販あり)のにぎわい



③物販なしのレイアウト



④会場奥ポスター掲示(小笠原10周年関連)

## 9. その他

今回作成したポスターはイベント終了後、小笠原父島のビジターセンター及び世界遺産センターの企画展で掲示



令和3年度 第1回 都民を対象としたテーマ別環境学習講座

「世界自然遺産登録 10 周年記念講座 いつか行く日のための小笠原講座」

- 実施日時 令和3年6月27日(日)  
15時00分～17時00分
- 実施方法 Zoomを使用したオンライン開催
- 受講者数 定員なし 受講申込者数490名



□実施内容

○第1部「小笠原諸島の地理と生活」

(講師) 東京都レンジャー 熊本 舞子氏

●小笠原の地理

- ・東京から南に約1000km、沖縄とほぼ同じ緯度。
- ・小笠原諸島は聳島列島、父島列島、母島列島、火山列島からなる30の島々の総称。
- ・人が住んでいるのは父島と母島だけ。
- ・人口は父島が約2000人、母島が約500人。
- ・小笠原の平均気温を東京及び札幌と比較すると一番暑いときは札幌とそこまで変わらない。また、年中通して穏やかな気候。
- ・島への交通手段は船のみ、おがさわら丸は6日に一回しか来ない。



●小笠原の生活

- ・島の食材事情入港日と出航中では品揃えが違う。パンは冷凍されてくる。
- ・日用品やガソリンなどの値段は内地と比較すると高い。
- ・島には食料品店、診療所、郵便局などはあるが、コンビニ、映画館、本屋、電気屋、ドラッグストアはない。
- ・インターネットで何でも購入することができるが日数がかかるため基本的には常温のもの以外送ることができない。
- ・島の特別な食べものとしてウミガメが食されている。ウミガメ漁が許可されているのは日本では八重山諸島と



### 小笠原のみ

- ・ 南洋諸島から伝承された文化として南洋踊りがある。なお、南洋踊りは東京都指定無形民俗文化財に指定されている。
- ・ 夏には盆踊り大会がある。去年と今年はコロナの影響で中止となってしまったが来年実施できたら是非観光で訪れた方々にも一緒に踊ってもらいたい。
- ・ 秋には相撲大会も実施される。小笠原は八丈島の方々によって開拓されたため八丈文化が色濃く残っている。
- ・ 小笠原は23年間アメリカの占領下にあり、1968年に日本に返還された。
- ・ 学校は小学校が2校、中学校が2校、高校が1校あるが母島には高校はないため父島の高校に通う。給食はなく、運動会は小中高連合で実施される。
- ・ 小学生181人、中学生77人で島の平均年齢は40歳と東京都内で一番若い。
- ・ 診療所で対応できない患者さんは海上自衛隊のヘリと飛行機で東京へ搬送される。
- ・ 小笠原の暮らしをまとめると、「とおい」が「おだやか〜」で「べんり」ではないが「ふべん」でもなく、ほぼほぼ「にほん」

### ○第2部「フィールドガイド」

(講師) 東京都レンジャー 熊本 舞子氏・宮川 五葉氏

#### ●各所より中継及び動画紹介

- ・ 竹芝(東京)より 藤澤レンジャー
- ・ 東町(父島)より 比留間氏
- ・ 長崎(父島)より 田谷レンジャー・井上レンジャー  
右田レンジャー
- ・ 鮫ヶ崎(母島)より 竹中レンジャー・足立レンジャー  
向レンジャー

### ○第3部「小笠原の自然と世界遺産」

#### ●小笠原の自然

- ・ 島はその成り立ちによって大陸島と海洋島に分けられ、小笠原は海洋島。海洋島は島ができたときには動物も植物もない島であるが、3つのW「Wave」「Wing」「Wind」によって生き物がやってきている。



児童・生徒の数は? 総人口は2591人

	小笠原小学校(父島)	海島小学校	
1年生	23	6	<b>小学生 181人</b>
2年生	20	6	
3年生	25	3	
4年生	20	4	
5年生	25	7	
6年生			
総人数	67	19	

	小笠原中学校(父島)	海島中学校	
1年生	31	3	<b>中学生 77人</b>
2年生	19	6	
3年生	17	1	
総人数	67	10	

島の平均年齢は40歳!

2020年5月





- ・ 3つのWは世界自然遺産のロゴマークにデザインされている。
- ・ 偶然たどり着ける生物は少なく、在来の哺乳類はコウモリのみ。
- ・ 使える環境（ニッチ）が空いているため様々な環境に長い年月をかけて適応（進化）する。進化した子孫は固有種となる。
- ・ 小笠原にいる陸鳥9種のうち6種が固有種。小笠原は島によってさまざまな環境があり、進化できる環境が多いことから固有種が多くなる。
- 父島と母島の環境の違い
  - ・ 父島と母島では標高が違う（父島 326m、母島 463m）
  - ・ 父島は山頂の方のみ雲霧帯に入っているが母島では乳房山や石門が常に雲霧帯に入っており湿っている。そのため森林の植生が違う。（父島：乾性低木林、母島：湿性高木林）
- 世界遺産
  - ・ 小笠原諸島が世界自然遺産に登録されたのは「生態系」に関する基準を満たしたため。特に「進化の過程が見られる」ことが評価されている。「進化の過程が見られる」というのはもともと1種類だった生きものが色々な種類に分かれていったことがわかるということ。
  - ・ 小笠原の固有種の割合「植物」36%、「昆虫」80%、「カタツムリ（陸生貝類）」92%と群を抜いて「カタツムリ」が多い。
  - ・ 雲霧帯にのみ生息する「オガサワラオカモノアラガイ」という変わったカタツムリもいる。
  - ・ 小笠原の固有種の特徴は3W（風 Wind、翼 Wing、波 Wave）によって島に渡ってくるため固有種は多いが生き物の種類は少ない。その結果、餌や生存環境をめぐる生存競争が少ない。
  - ・ 海洋島と大陸島の生き物を比較すると海洋島の生態系は非常にもろくて弱い。
- 外来種
  - ・ アカギとグリーンアノールについての動画紹介
  - ・ 外来種問題は小型化・非意図的化しているためより駆除や対策が大変になっている。その対策としては「侵入させないことが一番の近道」であり、小笠原を訪れ

小笠原世界自然遺産のロゴマーク



陸鳥9種（父島・母島で繁殖してる鳥）



「進化の過程が見られる」とは…？



こんなのもいます  
**オガサワラオカモノアラガイ**  
 ・ 標高が高く（300m～）霧がかかる「雲霧帯」のみに生息  
 ・ 常に湿度の高い雲霧帯に適応し、乾燥対策である殻が小さくなる進化をした  
 ・ 体が殻に入らない



る人全員で行う必要がある。

- いつか行く日のためにできることとして、「荷物のチェック」「服・靴・鞆のチェック」「心のチェック」を。

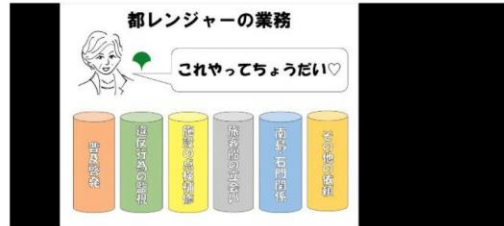
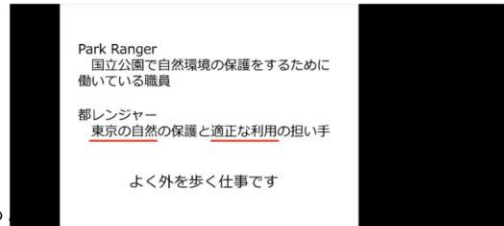
#### ○第4部「都レンジャーの保全活動」

##### ●東京都レンジャー

- レンジャーと聞いて浮かぶイメージのなかで一番近いものは「Park Ranger」＝「国立公園で自然環境保護を行う職員」
- 都レンジャーは「東京の自然の保護」と「適正な利用の担い手」として設立された。
- 都知事の任命を受け、以下の項目について実施している
  - (1) 国立公園に立ち入る観光客等の利用者に対するマナーの普及啓発
  - (2) 国立公園における植物の盗掘、無許可の開発等の法令に違反する行為の監視及び是正指導
  - (3) 指導標、歩道等の自然公園施設の点検及び危険箇所応急補修
  - (4) 父島及び母島において旅客船が発着する際に実施する観光客に対する動植物の持込み及び持ち出しの有無の検査、旅客船の乗船者又は下船者への靴底洗浄等の実施による外来種対策の実施
  - (5) 観光業者などへの自然環境の保護及び利用の促進に係る指導及び助言
  - (6) 東京都版エコツーリズムの順守状況の調査及び是正指導
  - (7) その他業務を担当する課長が必要と認める土木課の業務の補助
- 上記の内容をまとめると「普及啓発」「違法行為の監視」「施設の点検補修」「旅客船の立会い」「南島・石門関係」「その他の依頼」となる。
- 安全に利用できるように危険木の処理や歩道の土砂掻き、楽しく利用できるように施設の補修や歩道の補修を実施している。
- 事前質問であった近自然工法を用いた階段作りについてタイムラプスにて紹介
- 小笠原の自然を守るために船の立会い、外来種駆除、海鳥の調査、兄島Cラインの管理、植物調査、

#### いつか来る日に私たちにできること

- **荷物のチェック**  
 荷物の種類など、入り込んでいませんか？  
 土のついたもの、持ってきていませんか？
- **服・靴・カバンのチェック**  
 内指し・父島、父島→母島で靴に土はついていませんか？  
 服やカバンに植物の種ついていませんか？  
 移動のたびにチェック！！
- **心のチェック**  
 自分が小笠原の自然を壊していないか、外来種を広げる人になっていないか、希少な動植物を感嘆づけていないか、問いかけてください。





レンジャーの取組みを伝えることを行っている。

●母島レンジャーの保全活動

- ・オガサワラシジミとオガサワラカワラヒワについて紹介  
この2種の共通項は「絶滅」
- ・オガサワラシジミは小笠原固有のチョウ類であり1980年代から激減し、父島では絶滅したと考えられている。現在は母島でのみ見ることができる。レッドリストの категорияは1A CR
- ・オガサワラシジミを守るために都レンジャーは生息域内（小笠原）においては、定期的なモニタリング、密猟者のパトロール、餌木の植樹や生育状況の改善、普及啓発を実施しており生息域外（内地）においては、多摩動物公園等での飼育繁殖の協力を行っている。
- ・生息域外個体群については2020年8月に繁殖途絶が発表された。実はその発表の3週間前に延べ100人によるオガサワラシジミの搜索も実施されていたが確認できなかった。
- ・今後も定期的にモニタリングは実施する。
- ・オガサワラカワラヒワはオガサワラシジミと同じくレッドリストの1A CRに分類されており、母島と周辺属島、火山列島にのみ生息している。来年9月に日本で11番目の固有種になる予定。
- ・令和最初の絶滅の鳥になるかもしれないと言われており、現在の推定個体数は200羽程度とされている。
- ・オガサワラカワラヒワを守るために都レンジャーは生息域内において、定期的なモニタリングと普及啓発を行っている。
- ・森林総合研究所の川上和人先生よりいただいたメッセージ動画を紹介。

●父島レンジャーの保全活動

- ・兄島Cライン点検
- ・グリーンアノールはもともと日本には生息していない生き物だが戦後に運搬された物資に混入したりペットとして飼われていたものが遺棄されたり、脱走したりした個体が帰化していると言われている。
- ・グリーンアノールの問題は食べられた虫がいなくな



オガサワラシジミを守るための活動

生息域内 (=小笠原)	生息域外 (=内地)
<ul style="list-style-type: none"> <li>定期的なモニタリング</li> <li>密猟者のパトロール</li> <li>餌木の植樹や生育状況の改善</li> <li>普及啓発</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>飼育繁殖技術の確立</li> <li>多摩動物公園等での飼育繁殖</li> <li>生態研究</li> <li>遺伝子解析</li> <li>普及啓発</li> </ul>

シジミ大搜索！  
多摩動物公園でのオガサワラシジミ飼育をなんとかつなごうと、6日間（わたり延べ100人以上）でオガサワラシジミを搜索したが発見には至らなかった...



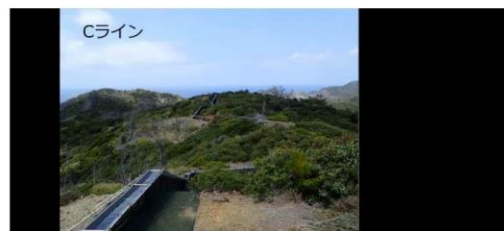
オガサワラカワラヒワを守るための活動

生息域内 (=小笠原)	生息域外 (=内地)
<ul style="list-style-type: none"> <li>定期的なモニタリング</li> <li>天敵（ネズミ・ノネコ）の駆除</li> <li>生育状況の改善</li> <li>普及啓発</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>飼育・繁殖技術の確立</li> <li>飼料・茶殻</li> <li>生態研究</li> <li>普及啓発</li> </ul>



ることで虫媒花が成立しなくなり、乾性低木林がなくなってしまうことである。

- ・グリーンアノール対策としては物理的に数を減らすことが重要であり、アノールトラップで捕獲している。また、入れない、広げないことも重要であるため、柵（Cライン）によって拡散・侵入を防いでいる。
- ・Cラインを越えてしまうと弟島にも進出してしまう可能性。月1回点検している。
- ・Cライン特徴は、①傾斜が急。（距離を短くするため。また、在来種の繁茂している区画を避けたため。）  
②日陰が全くない。（アノールは枝から柵を渡ってしまうことからCラインの前後は木を伐採しているため。）
- ・2019年10月21日に直撃した台風により一度崩壊するも2020年3月には完全復旧した。
- ・兄島Cラインまとめとして、日陰のないラインはとても暑く、外来種駆除は簡単ではない。また、柵を作ることも維持管理することも莫大なお金がかかるため外来種をこれ以上増やさない意識と諦めない強い心を持ち続けることが大切。
- ・兄島Cライン動画紹介



#### ○第5部「質疑応答」

##### ●事前質問

- ・「ウミガメの産卵は見られますか？」  
田谷レンジャー回答「5～8月がアオウミガメの産卵シーズン」
- ・「小笠原のベストシーズンは？」  
田谷レンジャー回答「6月下旬から7月上旬が海がとてもきれい。冬もおすすめでザトウクジラも見られる。」
- ・「野鳥観察のシーズンは？」  
田谷レンジャー回答「陸鳥は通年見ることができる、冬には小笠原ではあまり見ることができない鴨、鳴、千鳥も飛来する。」
- ・「小笠原の固有種で一番かわいい生き物は」  
足立レンジャー回答「オガサワラクマバチのオス」
- ・「レンジャーが個人的に好きな場所、おすすめの場所は」  
竹中レンジャー回答「石門と乳房山。特に馬の背の景





色が一番好き。」

熊本レンジャー回答「電信山線歩道と高山。高山は南方の展望台とハートロック方向の景色が好き。」

- ・「胡椒の栽培はできますか？」

右田レンジャー回答「農家の中で作っている方がいる。補足として小笠原でメジャーな香辛料は島唐辛子。

レンジャー的には胡椒と聞くとシマゴシヨウが浮かぶ。」

- ・「南島の沈水カルスト地形は何がすごいの？」

井上レンジャー回答「沈水カルスト地形とは、カルスト地形を形成した後、地殻変動の影響で沈下した地形。海の中でもカルスト地形が見られたり、地上部でもカルスト地形で形成された岩などが見られる。南島自体は数千年前まで森が形成されていた場所であり、その痕跡を見ることができる。」

- ・「世界自然遺産に登録された10年前と比べて現在の自然環境はどのように変化した？登録から10年間で変わったことがあれば教えてほしい。」

向レンジャー回答「島民の方々が自然に対して興味を持つようになったり、興味を持つ機会が増えた。自然環境の変化については、10年というスパンでは変化を感じる機会が少ないが、大規模な干ばつや大型台風の発生など大きく環境が変化する要因が増えてきているように感じる。」

#### ●当日質問

- ・「平均年齢が低い原因は子供が多いから？それとも高齢者になると生活できないから？」

宮川レンジャー回答「両方。病院に定期的に通うのが難しいため健康である必要がある。」

- ・「最近お仕事中にヒヤッとしたことはありますか？」

田谷レンジャー「高いところが苦手ですいつもヒヤッとします」

宮川レンジャー「ヒヤッとしないように安全対策は講じているが環境が環境であるためにヒヤッとすることはある。」

熊本レンジャー「AEDや救命方法のトレーニングを実施し、ヒヤッとしないようにしている。」

- ・「都レンジャーにはどうやったらなれますか？」

右田レンジャー回答「受験資格としては、環境系の



勉強や実務経験の有無。小笠原レンジャーに関しては100m泳げること。都のHPを見ていると時々募集要項が掲載されているのでぜひご覧ください。」

- ・「西之島の状況が気になる」

向井レンジャー回答「2012年までは都レンジャーも上陸していた。2012年の時点では湖や植物もあったが2019年時点では噴火の影響で火山灰に埋まっている。そこからさらに噴火し、写真のような状況になっている。」

- ・「活動するうえで一番大切にしていることは？」

井上レンジャー「利用者の安全。在来植物等の現況を傷つけないこと。」

- ・「都レンジャーとして現在一番力を入れて取り組んでいることは何でしょうか？」

宮川レンジャー「普及啓発。小笠原に来る人の意識を変えていくことが大事であると考えている。」





## 小笠原諸島世界自然遺産 登録 10 周年記念

「初代世界自然遺産登録地ガラパゴス諸島から学ぶ 海洋島の環境保全」

WEB 講演会（父島から発信）、写真展を同時開催

### 1) 事業概要

2019 年に締結した東京都とチャールズ・ダーウィン財団(CDF)連携協定に基づき、小笠原諸島世界遺産登録 10 周年の節目となる 2021 年度に、保全に関して交流を深め知見を得るため、小笠原とガラパゴスを中継してウェブ講演会を実施すると共に、ガラパゴスや協定を紹介する写真パネル展示会を行う。

### 2) 実施者

主催：東京都

後援：環境省関東環境事務所、林野庁関東森林管理局、小笠原村

協力：チャールズ・ダーウィン財団(Charles Darwin Foundation-Galapagos)

公益財団法人東京都公園協会、

運営事務局：NPO 法人日本ガラパゴスの会（NPO 法人小笠原自然文化研究所、ビーアイオー）、東京都

### 3) 日時と場所

#### 1. ウェブ講演会「世界自然遺産ガラパゴス諸島から学ぶ」

日時：令和 4 年 1 月 15 日（土）午前 9 時～11 時 30 分

ガラパゴス時間 14 日（金）18 時～20 時 30 分

会場：環境省小笠原世界遺産センター（小笠原村父島）～中継～チャールズ・ダーウィン研究所（ガラパゴス諸島サンタ・クルス島）

視聴：オンラインライブ配信（You Tube ライブ）、後日期間限定公開予定

#### 2. 写真展示会「ガラパゴスの紹介～子どもたちが撮った世界自然遺産～」

期間：令和 4 年 1 月初旬～3 月下旬（予定）

会場：東京都小笠原ビジターセンター（小笠原村父島）

### 4) 企画内容

#### 1. ウェブ講演会

小笠原諸島と同じ孤立した海洋島のガラパゴス諸島は、遺産価値を守るために求められる管理対策には多くの共通点が考えられる。今回はガラパゴス諸島の遺産管理機関の担当者らより、これまでの活動状況や今直面している課題を紹介してもらう。

講演プログラム

- ① 挨拶：小笠原支庁長
- ② 世界遺産 10 周年、小笠原の課題：（演者調整中）
- ③ チャールズ・ダーウィン研究所：「ガラパゴスの自然遺産としての価値と CDF の活動」（ガラパゴスに関する動画放映 →CDF のプロモーション動画を字幕付きで。）
- ④ ガラパゴス国立公園局：「現在のガラパゴスの保全活動」
- ⑤ ガラパゴスバイオセキュリティ局「ガラパゴスのバイオセキュリティシステム」
- ⑥ 質疑応答（会場およびウェブからの質問に答える）
- ⑦ 挨拶：小笠原村長

※現地からの講演③～⑤は逐次通訳（スペイン語または英語→日本語）

2. 写真ポスター「ガラパゴスの紹介～子どもたちが撮った世界自然遺産～」

ガラパゴス国立公園局が行っている、子どもたちにガラパゴスの自然を知ってもらい保全意識を醸成する環境活動の一環で中高生が撮影したガラパゴスの写真約 40 点を展示する。またチャールズ・ダーウィン研究所が取り組む活動を紹介するパネルおよび、都とチャールズ・ダーウィン研究所の協定を紹介するパネルを約 10 点展示する。さらに、ガラパゴスを代表する生物ガラパゴスゾウガメの等身大レプリカも展示し、ガラパゴスを身近に感じてもらうきっかけとする。

《運営事務局連絡先》

NPO 法人日本ガラパゴスの会 事務局 担当：奥野

電話：070-6429-4770（直通）、03-6868-3053

E-mail：info@j-galapagos.org